

メンタルパワーモデルによる組織の局所安定領域

Local stability analysis of organization on mental-power model

飯箸泰宏*
Yasuhiro IIHASHI

*明治大学
Meiji University

あらまし: リーダの任務は、組織の局所安定領域を見極めて、必勝の陣形を常に再構築することである。座して死ぬ局所安定領域にその組織は嵌っていないか、必勝の局所安定領域はどこか。優れた組織のリーダーはその人間的な能力をフルに働かせて判断を怠らない。ここでは、組織の局所安定領域とは何かを、ここに提案するメンタルパワーモデルを利用して明らかにする。

キーワード: メンタルパワーモデル 情報組織論 経営戦略 局所安定領域

1 はじめに

組織とは定常流的実在であり、きわめて危ういバランスの上に存在している。人と人のつながりの上に作られていながら、その要素たる人は他の組織にも同時に所属しているし、その上、脱退したり、新規に参加してきたりもする。生き残る組織もあるが崩壊する組織も多い。従来言われてきた強度、硬度、大きさという尺度では、生き残る組織を見つけることは困難である。

開放系の熱力学に習って、熱量に対応するメンタルパワーという「量」を導入することによって、組織の局所安定領域を発見することができることをここでは示すことにする。

2 “thought leader なし” のモデル(モデル1)

2-1 モデル1の概要

組織 O の中に、ある“志”のグループがあるとする。単純のために、ここは、“志”が高いが、常に知が湧き出してくる源泉 (thought leader) のようなものはないと仮定する。

そのグループのメンタルパワーの総量を P とする。メンタルパワー P は一般に次のようにあらわされるものとする。

$$P = q \cdot c \cdot m$$

q : 支持率

c : メンタル比熱

m : メンタル温度

任意の“志”グループを取り上げ、グループ間の干渉がないと仮定すると

$$\frac{dP}{dt} = \rho_w q (m_w - m) \quad (1)$$

ρ_w : 環境と O との比メンタルパワー伝達速度
 w : 環境

ここで、

$$q = 1 - e^{-\rho_0 P} \quad (2)$$

と仮定する。

この仮定によれば、メンタルパワーが大きければ、組織率が1に近づく。すなわち100%に近づく。メンタルパワーが小さければ、組織率が0に近づく。すなわち0%に近づく。

ρ_0 は O 内の比メンタルパワー伝達速度。 $\rho_0 \geq 0$ 。

2-2 “thought leader なし” のモデルによる組織の時間変化

実数の範囲で (1) (2) から、組織率 q を求めると次のようになる。

$$0 = C = (1/4)$$

q について解くと

$$q^2 - q + C e^{-\rho_0 \rho_w (m_w - m)t} = 0$$

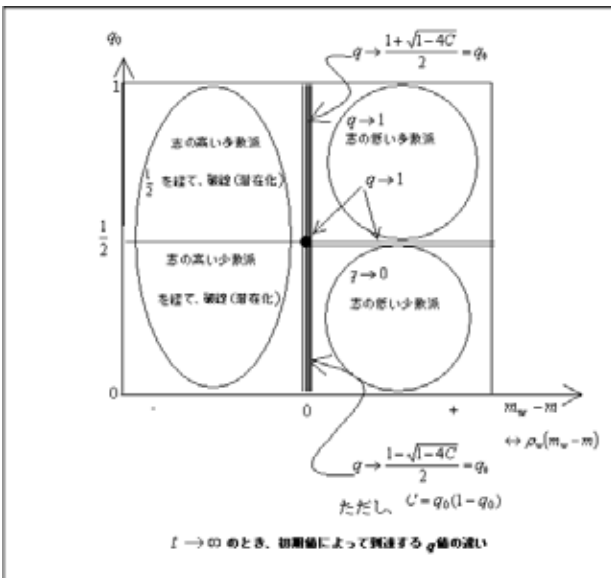
$$q = \frac{1 \pm \sqrt{1 - 4C e^{-\rho_0 \rho_w (m_w - m)t}}}{2}$$

$$D = 1 - 4C e^{-\rho_0 \rho_w (m_w - m)t} \text{ とすると}$$

$$q = \frac{1 \pm \sqrt{D}}{2}$$

$q_0 < 0$ はありえないので、 $q_0 \geq 0$ のみを考える。

時間 $t \rightarrow \infty$ の場合を求めると、以下のようなグラフが得られる。



2-3 教訓 (モデル1による)

- ・孤立する組織や社会 ($\rho_w(m_w - m) = 0$ 、グラフ中央の縦線部分)は、 $q \rightarrow q_0$ で安定する可能性がある。

ある意味で、鎖国政策は成立する。

- ・周囲よりも”志”が高い組織または社会 ($m_w - m < 0 \leftrightarrow \rho_w(m_w - m) < 0$ 、グラフの左半分)は一時半分を収めることが出来ても、常に破綻する運命にある。正直者の口は疲弊し、良貨は悪貨によって滅ぼされる。 ”志”が高い組織または社会が生き残るには、モデル2へ。
- ・周囲よりも”志”が低い組織または社会 ($m_w - m > 0 \leftrightarrow \rho_w(m_w - m) > 0$) で、初期に過半数を占めているグループは、全員を一つにまとめることに成功する。「過半数を超える抵抗勢力」はモノも言わずに生き残る。
- ・周囲よりも”志”が低い組織または社会 ($m_w - m > 0 \leftrightarrow \rho_w(m_w - m) > 0$) で、初期に過半数を占めていないグループは、かならず、消滅する。

3 “thought leader あり” のモデル(モデル2)

3-1 モデル2の概要

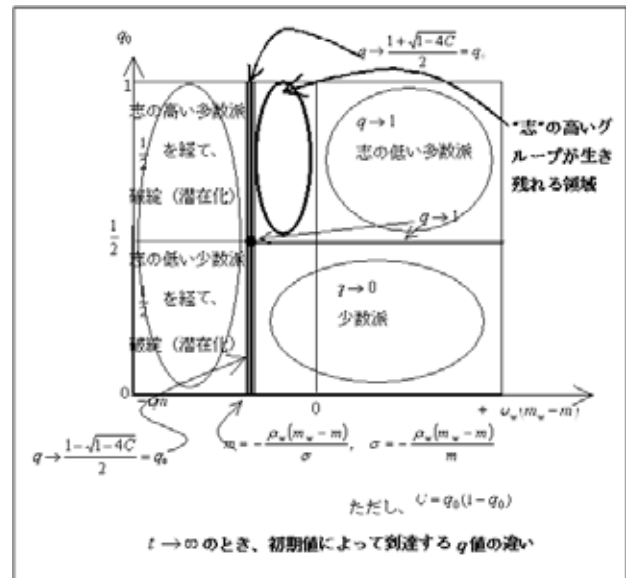
モデル1の(1)式にメンタルパワー湧出の項を追加する。これは、常に知が湧き出してくる源泉(thought leader)が存在することを意味している。

$$\frac{dP}{dt} = \rho_w q(m_w - m) + \sigma q m \quad (1)$$

σ : 比メンタルパワー湧出率

3-2 ”thought leader あり” のモデルによる組織の時間変化

この場合も同様に時間 $t \rightarrow \infty$ の場合を求めると、以下のようなグラフが得られる。



3-3 教訓 (モデル3による)

- ・メンタルパワーの比湧出率が、環境から影響を受ける割合よりも大きい場合 $\sigma > -\frac{\rho_w(m_w - m)}{m}$ は、”志”が高い組織または社会が生き残れることを示している。

4 メンタル空間と実空間の差

組織率を変化させることによって、局所安定領域に必勝の陣形を構築する必要があるが、心に描く変化のプロセスをそのまま実行すると破綻することが多い。メンタル空間と組織の実空間の間には、球面幾何学と平面幾何学に似た写像関係が成立している。この種の問題もこのメンタルパワーモデルは明快に示すことができるが、解説は別の機会に譲る。

参考文献 (既発表資料)

- [1] 飯箸泰宏、『組織破断限界シミュレーションの試み』、SH 情報文化研究会・明治大学情報科学センター共催、2005.12.10